

富士見市文化芸術振興委員会第10回会議録

日時	平成27年2月16日（月）15：00～15：30
会場	中央図書館 視聴覚室
出席者 (欠席者)	<p>■委員（順不同・敬称略） 加藤 健司、氣賀澤 明子、小塚 茂、増岡 昭、稲村 松美、野村 東央留、羽石 裕子、山崎 咲子、吉川 節男、富田 實</p> <p>■事務局 山田自治振興部長、市川地域文化振興課長、中嶋副課長、大下主事</p> <p>■研究者（順不同・敬称略） 小林 真理、長嶋 由紀子、中村 美帆、李 知映</p> <p>《欠席者》</p> <p>■委員（順不同・敬称略） 秋元 節子、小倉 洋一、佐藤 公誠、吉田 英穂</p>
会議内容	<p><第10回文化芸術振興委員会></p> <p>1 開 会 中嶋副課長</p> <p>2 あいさつ 山田自治振興部長</p> <p>3 議 事 （1）富士見市文化芸術アクションプランについて 文化芸術アクションプランの案について事務局より説明し、ご意見を頂いた。</p> <p>委 員：市民が自ら行う事業はアクションプランの中には含まれないのか。 事務局：行政が実施する事業を計画化したものがアクションプランであると位置づけている。計画にもあるように、市民の主体的な組織が行政やキラリと協働して文化芸術を振興していくものと考えている。</p> <p>委 員：今後は文化芸術団体が行政に登録する必要が出てくるのか？ 事務局：登録制度のようなものは計画していない。</p> <p>委 員：このプランはどのように周知していくのか。 事務局：委員の皆様には直接お届けする。市民の皆様にはホームページや出</p>

先機関の窓口等で配布する。

4 その他

計画の策定やアクションプランにご協力いただいた研究者の皆様にご挨拶をいただいた。

中村美帆氏（静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科専任講師）

・ご一緒できて本当によかった。アクションプランを作らない地域もあるが、富士見市は作ることを決めた。だからこそ、プラスになるツールを考えていただきたいと思った。計画や条例と比べ、アクションプランは行政の内部的な仕組みや段取り作りになっていく。市民や研究者はうまく行くかを確認する姿勢が必要である。富士見市の良いところは、市民参加で試行錯誤する姿勢だと思う。作って終わりではなく、市民の皆さんも関心を持ち続け一緒にやっていくことが富士見市の文化になる。これからもお互い頑張っていきましょう。

長嶋由紀子氏（共立女子大学他非常勤講師）

・今回ディスカッションやWSで外からではなく、地域の方々の様々な意見を聞きながら携わらせていただいたのは貴重な経験だった。その土地ならではの形を作っていく事が一番大事な事であると考えている。プランを作った事により文化事業は何が足りないかがわかるようになり、市民主役の組織を作っていく事が明確化され、課題がはっきりと見えてきたのではないかと引き続き関心を持ってどんどんやっていただきたい。私も機会があれば参加させていただきたいと思っている。これからもよろしくお願いします。

李知映氏（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程）

・条例、計画、アクションプランができて、これからだと思っている。基本目標、施策の柱に沿って事業を並べると、まだ空いている部分がたくさんある。そこをどれだけ埋めていけるのかが大切なことだと思う。計画があるという流れの中でどのような事が生まれていくかにとっても興味がある。また、評価をどのようにやっていくのか、事業継続するのか見直しするかも関心を持っているところである。これからも皆さんどうぞよろしくお願いします。

5 閉 会 加藤委員長

第10回富士見市文化芸術振興委員会 次第

日時 平成27年2月16日(月)

15時～

場所 中央図書館視聴覚室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

富士見市文化芸術アクションプランについて

4 その他

5 閉 会

閉会后、文化芸術振興基本計画講演会を行います。

講師 東京大学大学院准教授 小林真理先生

演題 文化芸術振興基本計画を活用したまちづくり